

東京工芸大学工学部 教授  
松井 正宏

### 議題 1. 秋田県新屋浜風力発電所ブレード破損事故について

- ・日本海沿岸の気象条件の特異性と落雷確率等の評価が必要である。
- ・一度の落雷では大きな損傷にならない場合でも、高頻度で多数回の影響が累積することによる耐力の低下の評価を行い、部材の耐用年数そのものや評価方法の見直し等を行う必要がある。さらに、設計から運用、保守点検等、一連の枠組みに問題はないか大局的に検討していく必要がある。
- ・風力発電施設への落雷については、過去の事故の情報も整理して概観することが必要である。また、事故データベースへの情報の蓄積、情報の水平展開が重要である。

### 議題 2. 新潟県営高田発電所における水圧管路の破断事故について

- ・今回事故が発生した発電所は運転開始時点から 50 年以上経過している。こういった施設については、ライフサイクル（建設から維持管理、使用限界、解体まで）の評価（経年劣化による耐力の漸減等があるか等）を行う必要があるのではないかと考える。なお、これは発電所に限らず、公共性の高いインフラ施設に共通の問題であると考えられる。

### 議題 3. 南海トラフ巨大地震に係る電気設備等の耐性評価について

- ・令和元年に発生した千葉県を中心とする台風の被害を受けて、災害時連携計画の制度が創設された点は評価できる。一方、南海トラフ巨大地震について、災害時の連携のために想定される人的・物的リソースは十分であるか等の総量的な評価が重要と考えられる。